

所属機関名：奈良先端科学技術大学院大学

受講者名：井上敏宏 大西賢人

受講者番号：25 26

### 研修成果物（研修後レポート）

#### （1）発表資料の状況設定

学長室にて学長および副学長ら理事に、説明を行う。理事らは中期計画に「研究成果を広く世界に積極的に発信する方策を拡充する。」とあがっているとおり、情報発信については積極的であるが、機関リポジトリについての詳細な知識は持っていない。

#### （2）発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

##### <発表内容>

ここで言う学術リポジトリとは、一般に機関リポジトリと呼ばれているインターネット上のアーカイブの奈良先端科学技術大学院大学版である。現行の電子図書館システムは当方の検索窓口（URL）を既に知っているユーザーでなければ、コンテンツに行き着けないという欠点がある。本学の研究成果を広く世界に発信していくには学術リポジトリを構築するのが、最も効果的である。しかも本学の場合、コンテンツを保管するサーバは所有しているので、システム構築は比較的容易である。構築によるメリットと現有コンテンツの豊富さ、また世界のリポジトリ構築状況等をあげ、いかに本学での構築が重要であるかをうったえ、安定運用には若干の予算を必要とすることを要望する。

##### <講師からの助言 2006.9.1>

質問：今後、学内限定のコンテンツについて学外公開が可能な承諾を再度、取り直す予定があるのか。

回答：今すぐに行う予定はないが、将来的に取り組みたい。

質問：何を要望するためのプレゼンだったのか？

回答：サーバ導入の予算割り当て。

質問：大学のブランド力向上にはアクセス統計の把握が必要だと思うが。

回答：統計は既にとっている。ただし、公開していないので今後は統計の公開も考えたい。

質問：リポジトリシステムを導入するなら、平成19年度の電子図書館システムリプレイスでは何を更新するのか。

回答：リポジトリシステムを構築しても、電子図書館のコンテンツは移動しない。本学でのリポジトリは、入口機能のみに位置づけ、コンテンツ本体は電子図書館システムに置く。

##### <研修発表との改訂部分>

- ・要望のポイントがわかりにくかったので、予算について強調した。
- ・電子図書館システムとリポジトリシステムの役割分担が明確になるように心がけた。

(3) リハプレゼンの概要 (日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.)

日時：平成18年9月8日 (金)

場所：奈良先端科学技術大学院大学附属図書館マルチメディア提示室

発表者：井上敏宏、大西賢人

発表対象：学長、副学長 (図書館長)、学術情報課長、学術情報課図書総務係長

参加人数：6名

(4) リハプレゼンへの反響 (アンケートをとった場合の結果、感想の声等)

- ・最後のスライドで「今後の展望」があるが、本学にとって重要なことなので、もっと強調してはどうか。
- ・スライドはわかりやすく出来ていた。
- ・リプレイス時にサーバの導入は可能だと思う。ただし、機能を考えるともう少し低いスペックの機器で十分ではないか。

(5) その他 (備考、今後の予定と希望 etc.)

今回のリハプレゼンにおいて、以下のような意見があった。

- ・11月1日 (水) に開催予定の図書館担当学長補佐会議でも報告してもらいたい。出席者は副学長 (図書館長)、情報科学研究科の小笠原教授、バイオサイエンス研究科の田坂教授、物質創成科学研究科の小夫家教授。